

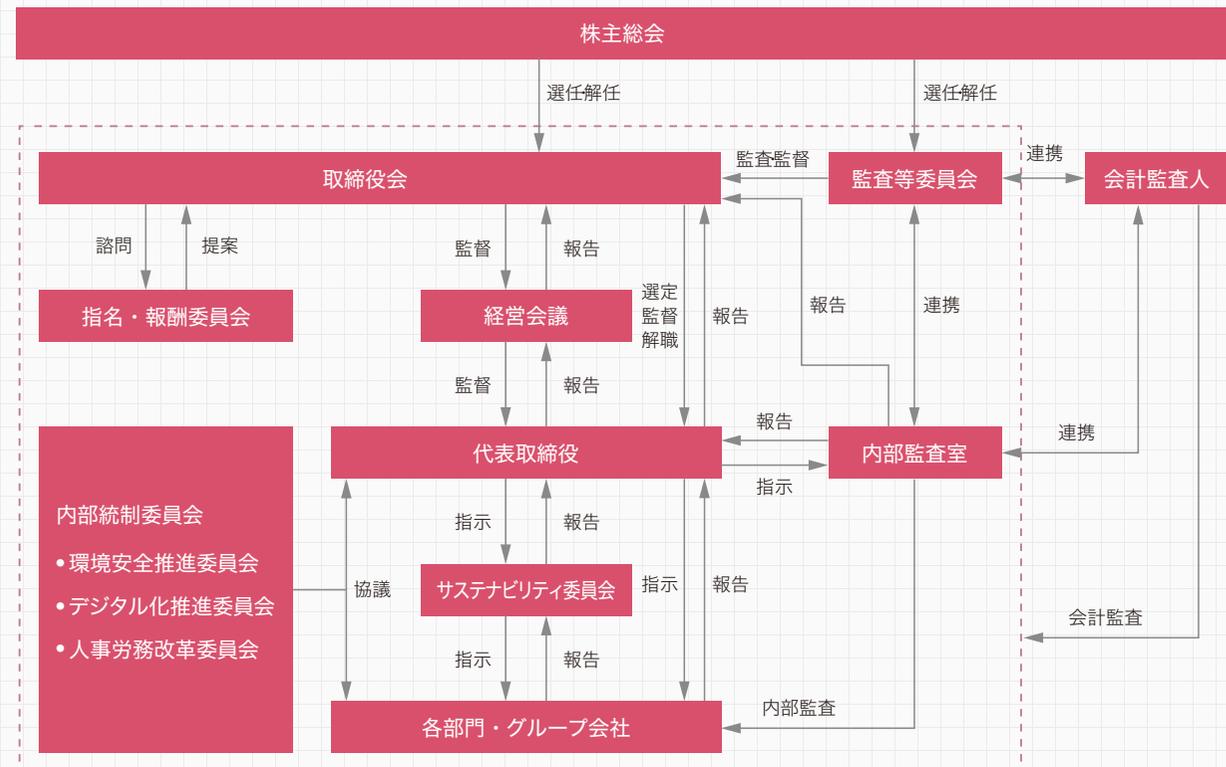
Governance

# 組織の隅々まで企業文化を浸透させ、 持続的な成長を支える

## コーポレート・ガバナンスの変遷

2010年	<ul style="list-style-type: none"> <li>現：株式会社エンビプロ・ホールディングス設立</li> <li>執行役員制度の導入</li> </ul>
2011年	<ul style="list-style-type: none"> <li>内部統制委員会を設置</li> </ul>
2013年	<ul style="list-style-type: none"> <li>東証二部上場</li> </ul>
2015年	<ul style="list-style-type: none"> <li>「内部統制基本方針」を決定</li> </ul>
2016年	<ul style="list-style-type: none"> <li>指名・報酬委員会を設置</li> </ul>
2017年	<ul style="list-style-type: none"> <li>監査等委員会を設置</li> </ul>
2018年	<ul style="list-style-type: none"> <li>東証一部上場</li> </ul>
2021年	<ul style="list-style-type: none"> <li>中期経営計画(サステナビリティ戦略)の開示</li> <li>サステナビリティ委員会を中期経営計画推進機関として重要な会議体へ変更</li> </ul>
2022年	<ul style="list-style-type: none"> <li>社外取締役の選定基準を制定</li> </ul>

## コーポレート・ガバナンス体制図



03 ESG (ガバナンス)

ENVIPRO GROUP SUSTAINABILITY REPORT 2024

## 取締役会

2023年度 開催回数15回

当社の取締役会は、取締役11名のうち6名を社外取締役（うち3名は監査等委員）で構成しており、原則として毎月1回開催しています。取締役会は、当社の業務執行に関する重要事項を決定するとともに、取締役の業務執行状況を監督しています。取締役会の運営では、議長である当社社長が全取締役を尊重して意見を引き出し、短期的な目線の良し悪しではなく、一見して因果関係のない方針や施策の話など、中長期的な事業の発展を意識した意見が発言されています。

## 監査等委員会

2023年度 開催回数14回

監査等委員会は社外取締役3名で構成されています。監査等委員である取締役は株主総会や取締役会へ出席する他、社内各種会議に積極的に参加し、管理体制や業務の遂行など会社の状況の把握に努めています。また、監査等委員会は代表取締役社長と定期的に会合を持ち、会社が対処すべき課題、監査等委員監査の環境整備の状況および監査上の重要課題などについて意見交換し、意思疎通を密に図っています。内部監査室、会計監査人と緊密な連携を保つため、定期的に連絡会を開催するなど積極的に情報交換を行い、監査機能の充実を図っています。また、内部監査室のほか、内部統制部門からも情報を収集することにより十分な監査を行っています。

## 指名・報酬委員会

2023年度 開催回数3回

指名・報酬委員会は、代表取締役1名、専務取締役1名、独立役員である社外取締役3名の5名で構成されており、取締役会の諮問機関として取締役（監査等委員であるものを除く）の候補者の選任や報酬などについて事前審議を行っています。

## 経営会議

2023年度 開催回数12回

経営会議は、当社常勤取締役および監査等委員長で構成し、内容に応じて執行役員および各部長、ならびにグループ会社の取締役をメンバーに加え、原則として毎月1回以上開催しています。

## サステナビリティ委員会

2023年度 開催回数11回

サステナビリティ委員会は、当社の常勤取締役で構成され、月に1回の頻度で開催しています。サステナビリティ委員会は、当社グループと社会の持続的発展を同時に実現させるための戦略である中期経営計画の推進を目的とし、代表取締役の意思決定の補助機関として、戦略の推進状況、新規事業およびM&Aなどを含めた将来的な方向性について、長期的な視野に立ち、フレキシブルかつ活発に議論・検討を行っています。

## 内部統制委員会

2023年度 開催回数12回

当社グループでは、当社社長を委員長とする「内部統制委員会」を設置しております。同委員会では3つの下部小委員会（環境安全推進委員会、デジタル化推進委員会、人事労務改革委員会）を構成し、リスクの抽出、対応策を策定し、啓発活動を含め当社グループ横断的な内部統制の構築運用を行っております。内部統制委員会は原則として毎月1回開催され、当社常勤取締役、執行役員、監査等委員長、連結子会社社長（持分法適用関連会社を除く）および小委員会委員長にて構成されています。

## 取締役会の実効性評価

当社では、取締役会全体の実効性について分析・評価を行うため、毎年6月に取締役にアンケートを実施し、今後の取り組みにつなげています。

アンケート内容	今後の取り組み
<b>01 取締役会の運営</b> ・資料・進行・説明などは十分か など	事前検討時間の確保を目的として、特に社外取締役への情報提供を早期かつ円滑に行っていきます。
<b>02 取締役会の審議事項</b> ・事業戦略の決定に対し、適切に参画できているか など	資料の質の向上に注力し、取締役からの有益な意見や戦略、施策の見直しが議論される場を設けていきます。
<b>03 取締役会の役割・責務</b> ・事業戦略の執行状況を効果的にモニタリングできているか など	

## 取締役の報酬制度

### 基本方針

- 取締役の職責と役割の大きさに応じたものであること
- 短期の業績に応じた報酬に加え、中長期の企業価値向上を総合的に勘案したインセンティブとして機能すること
- 株主の皆様と利益意識を共有すること
- 優秀な人材を確保し続けるために有効な報酬水準であること
- 市場や業界環境の変化と戦略的目標の変化に適応する柔軟性を持つこと
- 良い企業風土と強い企業文化の醸成に資すること

### 報酬構成

- 基本報酬
- 業績連動報酬
- 譲渡制限付株式報酬

### 今後の役員報酬制度の方針について

当社の指名・報酬委員会は中長期的な企業価値を高めていくために、役員報酬制度がどうあるべきかの議論を行い、意思決定を行っています。今後の方針としては、短期的な利益を追求するよりも、より中長期の視点を重視していくことが重要であると判断しました。具体的には短期の業績連動給を減らし、戦略コンセプト「サーキュラーエコノミーをリードする」を軸とした中長期戦略の推進、組織・人員体制の構築等に重点を置くこととしています。加えて持続的な企業の成長には良い企業風土にもとづく強い企業文化の醸成が、最も重要な経営テーマであることを確認しています。引き続き企業価値向上に向けた役員報酬制度の在り方を継続的に議論していきます。

## 株主・投資家との対話

当社グループは、IRにおいて株主・投資家の皆様との対話を重視し、適時かつ公平な情報開示に加え、代表取締役が自ら説明させていただき説明会を定期的に開催し、信頼関係を築きながら意見交換を行っています。株主・投資家の皆様との対話を通じて、より良い企業価値の向上を目指しています。

### 株主・投資家との対話内容、実施回数(2023年度)

決算説明会 (代表者自身による説明:有)	2回
個人投資家説明会	2回
IR個別面談	29回
機関投資家向けイベント	施設見学会1回 (参加者10名)

## 新任社外取締役メッセージ



## 攻めと守りの両輪を バランスよく強化し、 大きなチャンス を確実につかむ企業へ。

社外取締役（監査等委員）

村井 俊朗

住友商事（株）で長年にわたり、主に金属資源、エネルギーおよび産業素材分野において、国際貿易、事業投資、マネジメントに携わる。その後、監査役として監査業務に従事。2024年よりエンビプロ・ホールディングスの社外取締役・監査等委員を務める。

## 企業の「体幹」を整えることの重要性

経営には、「攻め」と「守り」の両面が必要です。SDGsやサステナビリティという世界的な課題が増す中で、リサイクル業界は大きな転換期を迎えています。この状況下において、まず「攻め」の観点では、当社のミッションである「持続可能社会実現の一翼を担う」、戦略コンセプトである「サーキュラーエコノミーをリードする」を実現する企業として、こうした社会的課題の解決に直結する事業を着実に、かつダイナミックに展開していく必要があります。

一方、「守り」の面では、企業の「体幹」を整えることが重要です。人に例えると、どれだけ体が大きくなって体幹が弱ければ真の強さが得られないように、企業も同様です。具体的には、安全管理、法令遵守、グループガバナンス、内部統制、リスクマネジメント、人材マネジメント、D&I、サイバーセキュリティなど、会社の体幹を担う部分、特にインナーマッスルを強化していく必要があります。これらは一見、利益に直結しないようにみえるかもしれませんが、実際にはこれらがしっかりしていることで、大きなチャンス確実につかむことができます。世の中の変化や会社の成長に伴って、これらの体幹も継続的にアップデートしていく必要があります。私のこれまでの経験を最大限に活かしながら、当社の持続的な成長を全力で支援してまいります。



## 運命的な出会いから生まれた使命感

私は、2024年より当社の社外取締役に就任いたしました。振り返ってみると、当社との出会いには運命的なものを感じます。私はこれまで総合会社において、金、銀、銅、ニッケル、リチウムなどの金属資源や鉄鋼原料、エネルギー分野での国際貿易、事業投資、マネジメントに長く携わってきました。当社の取り扱う商品群はそれらの分野と重なり、また、常勤監査役を務めた経験も当社の監査等委員として活かすことができます。これほど自分の経験にフィットした役割はないでしょうし、それゆえに大きな使命感を感じています。

社外取締役を務める上で私が重視しているのは、会社の事業に対する深い理解です。それには、できるだけ多くの機会を通じて執行役員や社員の皆様との対話を重

ねることが不可欠です。また、その上で、「社外」としての目を持ち続け、幅広い情報や知識をベースに世の中の変化を正確に見極めて、それを会社にフィードバックしていく。そして、監査等委員としてガバナンスや内部統制が的確に運用されているかをモニタリングすることが、私に課せられた使命だと考えています。

当社の強みは、多様な現場を持ち、それぞれに実践的な技術やノウハウを蓄積していることです。また、グループ内にコンサルティング機能を持ち合わせ、実際の現場での知見とともに複合的にソリューションを提供できる点も大きな特徴です。これらの強みを踏まえながら、グローバルな視点で情報を捉え、適切なタイミングで、必要な経営、投資判断を行っていくことが重要です。

### 役員一覧

 ① 代表取締役社長 佐野 富和	 ② 取締役副社長 佐野 文勝	 ⑥ 社外取締役【独立役員】 宮木 啓治	 ⑦ 社外取締役【独立役員】 野村 浩子
 ③ 専務取締役 春山 孝造	 ④ 常務取締役 中作 憲展	 ⑧ 社外取締役【独立役員】 今庄 啓二	 ⑨ 社外取締役【独立役員】 (監査等委員) 村井 俊朗
 ⑤ 取締役 竹川 直希	 ⑩ 社外取締役【独立役員】 (監査等委員) 神谷 寛	 ⑪ 社外取締役【独立役員】 (監査等委員) 白石 智哉	

### 役員体制

取締役の人数	うち社外取締役の人数	独立役員の数	取締役の任期
11名	6名	6名	1年 (監査等委員である取締役は2年)

### 役員スキルマトリックス

氏名	役職	在任年数	企業文化	経営戦略	生産技術	海外	CN CE	財務・会計・税務	法務 コンプラ	人事	IT	IR	専門知識
① 佐野 富和	代表取締役社長	14	●	●	●		●						
② 佐野 文勝	取締役副社長	14	●	●	●	●	●						
③ 春山 孝造	専務取締役	9	●	●	●	●	●						
④ 中作 憲展	常務取締役	1	●	●		●	●				●	●	
⑤ 竹川 直希	取締役	5	●	●			●	●	●	●		●	
⑥ 宮木 啓治	社外取締役	6		●		●							
⑦ 野村 浩子	社外取締役	2								●		●	●
⑧ 今庄 啓二	社外取締役	1		●	●	●		●				●	
⑨ 村井 俊朗	社外取締役(監査等委員)	新任		●		●		●	●				
⑩ 神谷 寛	社外取締役(監査等委員)	3						●	●				●
白石 智哉	社外取締役(監査等委員)	1		●		●		●	●		●	●	
石井 明子	常務執行役員 内部監査担当	-	●						●				
今井 健太	執行役員 リチウムイオン電池リサイクル担当	-	●	●	●	●	●						
杉山 泰司	執行役員 総務情報管理担当	-	●					●			●		
北詰 一隆	執行役員 リチウムイオン電池リサイクル・海外戦略担当	-		●	●	●	●						

### スキルマトリックス項目 選定理由

企業文化	当社は企業理念を組織の隅々まで浸透させることが長期利益の最重要課題であり最大のガバナンスであると考えているため採用しています。
生産技術	事業への投資に伴う工場の拡張や新技術導入を行うに当たり、当社の事業領域や生産技術への知見が必要であるため、採用しています。
CN(カーボンニュートラル) CE(サーキュラーエコノミー)	CN実現やCE事業展開に向けた知見が必要であるため採用しています。